

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100153		
法人名	SOMPOケア株式会社		
事業所名	SOMPOケア そんぽの家GH釜石平田(ユニット②)		
所在地	〒026-0001岩手県釜石市大字平田1-1-31		
自己評価作成日	令和6年12月17日	評価結果市町村受理日	令和7年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年1月23日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様にできることをしてもらうこと ・面会の機会を作り、なじみの方との交流を継続できるようにしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釜石市の南側に位置する静かな住宅地の中にある事業所で、経営主体のSOMPOケアは全国で介護事業を展開しており、県内や釜石市内にも系列の介護事業所を運営している。事業所には会社本部から最先端の情報がいち早く入り、会社の研修体系に沿って、経験年数に合わせた職員研修や管理者研修、ケアマネ研修など人材育成がしっかり行われている。会社全体で取り組んでいる「こども食堂」を毎月開催し、利用者と子供達が一緒に食事の準備をしたり、レクリエーションを楽しんでいる。この触れ合いにより子供たちが、介護や認知症への理解を深め、将来の福祉人材育成の一助となる取組みとなっている。24時間対応の訪問診療医の協力があり、家族からの看取り希望にも対応している。医療との連携体制が整っていて家族の安心につながっている。ほとんどの利用者が近隣地区からの入居で、家族や親戚、友人知人の面会が頻繁にあり、感染症対策に配慮しながら交流を大切にして利用者の支援に当たっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関・特定非常利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標を張り出し職員への意識づけをしている利用者様に家とっていただけるように日々の業務や季節の行事を取り入れながら支援できるようにしている	事業所理念である「笑顔で楽しく過ごす」は職員で話し合って策定し、日々のケアに生かせるように見やすい場所に掲示している。理念に沿ったケアを実践するため行事に工夫を凝らしたり、日々のケアの中にも利用者との交流を大切にすることを意識して取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平田こども園の園児との交流・お祭りでは虎舞と昨年もきてくれた踊りの団体も来てくれて交流の場が少しずつ増えてきている	町内会に加入しており、祭りには虎舞いや神楽が訪問して舞いを披露したり、こども園の園児がお散歩がてら遊びに来て、歌をうたったり肩たたきをするなど、利用者との交流機会が増えている。事業所主催のこども食堂は月1回実施しており、地域の世代間交流や子どもたちへの福祉教育などへの一役を担っている。芸術祭や救急救命講習などの参加についても地域から案内されるようになってきた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子ども食堂の開催で、子供たちが利用者様に接する様子が機会を増すごとに変化し保護者の方にも協力を得られるようになっている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方から意見をいただき職員への共有・提案をいただいている。地域の情報も得ることができている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催しており、委員は、町内会長、民生委員、市職員、駐在所、エリア内の高齢者福祉施設職員などである。事業所から利用者状況や活動内容などを報告し、委員それぞれの立場で意見が出されている。また、地域の情報提供や行政からの情報や助言を得る機会となっている。利用者が過ごしているホール内で開催しているため、利用者の日常の様子を知る機会にもなっている。	運営推進会議は外部の目を通して事業所の取組み内容や改善課題を話し合う重要な会議です。利用者や家族の意見も大切であることから、家族へも開催案内をしてできるだけ参加いただき、さらにより良いサービスにつなげていく事を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の方には月末月初の訪問時に状況の報告を行っている。定期的な訪問以外でも訪問するときもあり情報交換できている	市役所内の担当課に事業所ごとの専用ボックスがあり、行政等からのお知らせ文書が収納されているため、最低でも月1回、また連絡があれば随時職員が担当課へ出向き、顔を合わせて情報交換する関係ができている。市担当課職員と平田地区応援センター所長が運営推進会議メンバーとして参加しており事業所の状況について理解を得ている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。利用者様の状況を共有しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会は年2回開催し、管理者や計画作成担当者、介護スタッフが参加している。研修も年2回実施し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。会議、研修ともに実施内容については職員が共有するとともに会社本部へも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い不適切なケアがないかの振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、今後相談があったときに対応できるように関係機関と連絡がとれるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、疑問には丁寧に答えるように心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様からの要望を聞き、職員と共有をしている	利用者からの新聞を取ってほしい、髪を切りたい、甘いものが食べたい等の要望を日常の何気ない会話から把握し対応している。家族に対しては本社から年2回アンケートを行ない意見があれば事業所へ連絡が来る。事業所としても家族の面会時や電話連絡時などには努めて意見を聞くようにしているが、最近では意見が出されることはあまり無い。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別での面談時に意見を聞く機会をつくっている	管理者は毎月順番に3名の職員と個別面談しており、それとは別に年度の中間と年度末には職員評価も合わせた個人面談を実施し、個々の職員から意見を聞く機会を設けている。また、月1回定例の職員会議では本社からの運営に関する提案や指示事項について意見を出し合い、それを現場の意見として本社にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所への訪問・オンライン会議で意見を聞き、状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での研修が職種ごとにより各職員がそれぞれ研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に訪問し活動の様子など聞き、職員に情報提供している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人様の望む生活について伺い、入居後も話をききながら安心して生活できるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に家族様の悩み事などを確認し入居後も家族様と関われるように要望を聞きながら対応している		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時点で、違うサービスが必要と思われるときは、担当のケアマネジャーに報告している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様ができることはしていただき、共にやることは一緒にやりながら関係性を築くことができている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が面会時には状況を報告しながら家族様の話も聞きながら支援できている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に毎月来てくれているかたもいる。面会時に、馴染みの方と職員との交流もできている	面会時間は制限しておらず、午前中10時頃から夕食時間頃まで自由に訪問がある。面会は家族だけでなく、昔の同僚や友人知人など入居前からの繋がりが絶えることなく続いている。自分で携帯電話を所持している方もおり、友人に電話して会いに来てもらったりということもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でコミュニケーションをとっている。新しく入居された方に教えてあげたりと、利用者様同士で関わっている様子がみられている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に入居した方の状況を担当の方にきいたり相談があれば対応している		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を聞きながら出来ることは行い、難しいことは家族様と話をしながら希望に近づけるようにしている	自分の言葉で思いを話す方10人、問いかけの工夫で何とか意向を把握できる方が4人、全く意思疎通ができない方が4人ほどおり、表情や行動などから思いを汲み取るよう努めている。何かを決める時などは具体的な選択肢を示すようにし、できるだけ本人の希望を引き出せるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活について本人様・家族様・関係機関からの聞き取りを行い生活歴について把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活パターンに合わせながらできることは自分でしてもらえるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様と習慣やできることを把握しながら計画を作成している	入居時にケアマネジャーがアセスメントして暫定プランを作成し、1～2ヵ月程度時間をかけて見直し確定している。日々の介護・看護記録などを参考にケアマネがスタッフと情報交換しながらモニタリングを行い、本人家族の意向を確認した上で介護計画を更新している。作成した介護計画は家族へ説明し、理解できる利用者本人への説明も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録とは別に記入用の紙を用意し職員間で共有し計画作成者に情報をあげケア内容についての検討を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して必要なサービスは何かを話し合い、各事業所と連絡を取り合っている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今までの生活で関りがあった方との交流ができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療の方がほとんどになっている。かかりつけ医に通われている方には、通院時家族様に対応しており状態を主治医に伝えてもらっている	利用者のほとんどが月2回の訪問診療を受診しており、診察の結果は家族に電話等でお知らせしている。3名の利用者が入居前からのかかりつけ医に家族支援で受診しており、事業所からは血圧データ等必要な情報を家族に渡している。受診結果は家族から聞いてスタッフ内で共有している。他に訪問看護が週1回、歯科医は月1回検診に来ている。歯科治療が必要な場合は医院に連れていくこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との業務委託を行い月に4～5回訪問していただき状態の確認をしてもらっている。気になることがあればアドバイスをもらいながら必要時は主治医に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には情報提供を行い、入院時の様子を確認するようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明している。ほとんどの方が施設での看取りを希望されている。思いに変化があるとときもあるので主治医から説明をしていただくなど情報共有している	暮らし慣れたホームで最期まで過ごせるように体制を整え看取りを行っており、殆どの方が希望している。状況に応じて希望を変更する場合にも医療機関と連携しながら柔軟な対応が可能となっている。開設後7件の看取りを経験しており、医療機関からの指導助言や自主研修などにより、職員も落ち着いて対応できるようになっている。管理者は、今後は若い職員の育成が課題と認識している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぽの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時について主治医から注意点など訪問診療時に確認している。状況の変化については研修で学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には事業所2階への垂直避難としている。緊急時の連絡網を職員に配布して災害時に連絡を取り合えるようにしている。町内会の方にも避難時の協力をお願いした	火災、水害、土砂災害など、災害状況に応じて、2階への垂直避難か近隣にある福祉施設への避難などを想定している。火災避難訓練は消防職員立ち合いのもとで年2回実施し、ドライブ時に車の乗降訓練や職員の電話連絡訓練も行っている。区長や民生委員に相談しながら町内会の協力体制構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴を把握し、話しかけ態度など利用者様の尊厳を損ねないようにたいおうしている	入居時に生活歴、職業や特技などを本人や家族から聞き取り把握に努めている。情報はユニットの職員で共有し、利用者個々に適した対応を心がけている。生活歴を良く知ること、ホームの生活での役割を見出したり、話題に広がりを持たせるなど人となりを尊重した関わりが可能となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望をくみとり職員間で共有し希望をかなえられるものはできるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで過ごしてもらうように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容の方に来ていただく機会を作っている。利用者様から要望も聞かれる		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の茶碗拭きなど一緒にしてくれる。利用者様が自分から仕事を見つけて行っている。利用者様の嗜好品については事前に聞き取りをしたり食事の摂取状況で変更したりしている	栄養バランスの取れた主菜副菜が系列会社から前日に届くシステムになっており、職員手作りのみそ汁、ご飯と共に提供されている。献立はバリエーション豊かで、利用者は日々の食事を楽しみにしている。茶碗拭き、テーブル拭きは出来る利用者が当番制で行っている。弁当を外注したり、外食も取り入れながら食事を楽しむ工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取状況を各利用者ごとに把握し摂取が少ない方には飲みやすいものを提供するなど取り組んでいる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、入れ歯の不具合・口腔内に変化があった時には歯科医に相談し訪問診療をお願いし家族様に報告している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレでの排泄ができるようにしている。身体状況から夜間オムツとなった方もいるが日中はリハビリパンツでトイレ誘導ができている	利用者全員がトイレで排泄しており、夜間のみ居室でポータブルトイレを使用している方が1名、オムツ使用が2名いる。布パンツを着用している利用者は3名、その他はリハビリパンツを着用して失敗に備えている。排泄チェック表を活用しながら適宜声がけや誘導を行い、一人一人現在の排泄機能が維持できるようにケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況・認知機能の低下から排便のコントロールがうまくいかず内服に頼る方が増えている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様から入浴の希望がないため、週二回入浴できるようにしている。男性職員が苦手だった利用者様が今は抵抗なく入浴できるようになっている	週2回、午後入浴を基本としているが、月曜日から日曜日まで毎日浴室を使うことが出来、入浴日の変更など柔軟な対応が可能となっている。ゆず湯や様々な種類の入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむための工夫を行い、リラックスした雰囲気の中で職員と1対1の会話が弾む時間となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間が個々に違うので合わせて対応している。日中の時間も静養の時間を作り休んでもらうようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について確認しながら内服薬の変更があった場合には内服後の様子を主治医に報告するようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの装飾品を作ったり、食後の茶碗拭きや洗濯たたみなど、やれることを見つけている様子がみられるようになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望通りの外出はできていないが、外食の機会を作ることができた。事前にお店にも連絡し協力してもらうことができた。ドライブレクも春・秋・冬と行っている。	季節に合わせお花見や紅葉狩り、クリスマスシーズンにはサンタ帽子を被ってイルミネーションを見に出かけるなどドライブを楽しんでおり、外出に合わせて外食をしたり、ソフトクリームやたい焼きなどの軽食もあり、笑顔あふれるお楽しみの時間になっている。また気候の良い時には敷地内を散策して外気浴を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設預かりとして、立替での対応をしている。購入希望のものは職員が対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から手紙がきたり、電話があればお話しされている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : SOMPOケア そんぼの家GH釜石平田(ユニット②)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけなど利用者様と一緒に作っている。匂いなど不快に感じることがないように配慮している	正面玄関を入ると左右にそれぞれのユニットのホールがあり、それを囲むように居室が配置されている。ホールは天井が高く明るく広々とした解放感のある空間となっている。壁には季節を感じさせる手作りの作品を掲示したり、居室を間違わない様に入口に花の名前を掲げるなどさりげなく工夫が施されている。浴室やトイレ、洗面所は明るく清潔で気持ち良く使用することが出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは利用者様同士で座るところが固定されている。日が当たるときは窓辺に椅子を用意し過ごす方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使っていたものなど持ってきていただき家族様の面会時にゆっくり過ごしていただけるようにしている	ベッドとタンスが備え付けられており、エアコンと24時間換気システムにより冷暖房が調整されている。希望者には畳を敷き和室仕様にして利用者の希望に沿った部屋作りをしている。入居時には使い慣れた家具や小物を持参し、テレビを持ち込んでいる方も複数いる。思い思いに自分の好きな物に囲まれた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など把握し移動できている。食事の際も声掛けでテーブルまで移動したりと環境に慣れている		